

論文要旨

現代中国語における副詞の共起制限

一 焦点、アスペクト、モダリティの関連を通して

石井 友美

本論文は修飾-被修飾の関係においてみられる語の文法的な相性を共起制限と呼び、副詞と焦点、アスペクト、モダリティを表す成分との共起制限を考察するものである。本論文は、副詞自身の持つ焦点、アスペクト、モダリティ上の特性、および副詞の修飾を受ける述語の焦点、アスペクト、モダリティの特性を明らかにした上で両者の共起状況を説明する。

2章では副詞と疑問文の焦点の共起について説明した。中国語には、是非を尋ねる疑問文に諾否疑問文と正反疑問文の二種類があるが、これらの疑問文は(1)からわかるように“也”という副詞と共起すると異なった共起状況を引き起こす。

(1)a. 你 也 去 吗?

あなた も 行く MA

[あなたは行きますか?]

b. *你 也 去 不去?

あなた も 行く BU 行く

これは、諾否疑問文と正反疑問文では、焦点の性質が異なることが原因である。“也”という副詞を始め、疑問文と共起する副詞はその意味対象を焦点とする意味指向副詞である。一方、諾否疑問文の焦点の特徴は焦点の位置を自由に移動することができる「可動焦点」であり、正反疑問文の焦点の特徴は焦点の位置を述語の肯定、否定部分に置く「固定焦点」である。意味指向副詞は、「可動焦点」の疑問文としか共起できないと結論付けることができる。

3章では“已经”、“马上”のようなアスペクト副詞とアスペクト成分との共起状況について考察を行った。本章ではアスペクト成分として(2)(3)にあるようなこれから起こることを表す「将然のアスペクト」の“快要～了”、“就要～了”を取り上げた。

(2)a. 我 已经 快要 出国 了。

- わたし もう まもなく 出国する LE
 [私はもうまもなく出国する。]
 b. *我 已经 就要 出国 了。
 わたし もう まもなく 出国する LE
 (3)a. 他 马上 就要 回国 了。
 彼 すぐ まもなく 帰国する LE
 [私はすぐに帰国する。]
 b. *他 马上 快要 回国 了。
 彼 すぐ まもなく 帰国する LE

“快要～了”、“就要～了”はアスペクト副詞との共起に異なった様相を見せる。これは、ともに「将然のアスペクト」である“快要～了”と“就要～了”が、異なる注視点を含意することによる。“快要～了”は注視点を動作の始動、動作そのもののはやさに置く描写性の強いアスペクトである。一方、“就要～了”は注視点を終点に置く実現性の強いアスペクトである。従って、“快要～了”は、注視点を参照点以前に発生した状態の持続に置くアスペクト副詞の“已经”とは共起せず、“就要～了”は、起点と終点の隔たりの短さに注視点を置くアスペクト副詞の“马上”、“立刻”、“眼看”とは共起しないことが説明される。

4章ではモダリティの意味を表す副詞“太”と“好”とモダリティを表す助動詞“想”と“愿意”、を取り上げ、互いが共起した際に見られる(4)(5)の違いについて分析を行った。

- (4)a. 我 太 想 吃。
 私 とても たい 食べる
 [私はとても食べたい。]
 b. ?我 太 愿意 吃。
 私 とても たい 食べる
- (5)a. 我 好 想 看。
 私 とても たい 見る
 [私はとても見たい。]
 b. *我 好 愿意 看。
 私 とても たい 見る

このような違いは助動詞“想”と“愿意”の表すモダリティの性質から説明される。“想”は意志の所持を描写することに重点を置く「描写性意志」の性質を持つため、程度の高さと話し手の感情を表す“太”とも、常に話し手の感情を表す“好”とも共起できる。一方、“愿意”は意志を選択することに重点を置く「選択性意志」の性質を持つため、常に話し

手の感情を表す“好”とも、程度の高さと話し手の感情を表す“太”とも共起しにくいことが明らかになった。

以上のように、本論文では副詞が焦点、アスペクト、モダリティに与える共起制限について考察を行い、各章において副詞と焦点、アスペクト、モダリティの関係、また副詞がこれらの概念に与える影響を観察することにより、副詞が焦点、アスペクト、モダリティにおいてどのような位置にあるのかを明らかにしてきた。今後は副詞の与える共起制限が本論文で扱った以外の概念や文法構造、または副詞以外の品詞においてどのような様相を見せるのか課題としていきたい。